しろちどり

第75号

2013年 3月　日本野鳥の会三重

http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

春を待つ

津市　平井正志

この頃ウソが目立つようになったようだ。南勢からも伊賀からもウソが多いとの話を聞く、我が家の近くにある公園のソメイヨシノの木にもウソが 10 羽ほど来ている。双眼鏡でのぞくとややぽってりし、色艶のよい灰色の体、オスの鮮やかな、けれど決して派手ではない赤いのど。柔らかな口笛は春を呼んでいるようだ。いつもはあまり見ることの少ない鳥である。本来の越冬地はどのあたりなのだろう。ユーラシア大陸に広く分布する鳥なので、やはり大陸で冬を過ごす鳥も多いに違いない。あのしっかりとしたくちばしでトネリコの実（翼果）を好んで食べるという。油脂をたっぷりと含んでいて冬を越すのに欠かせない。それが不足すると他に移動するのだろう。おなじヒワの仲間のイスカはマツの実に頼っているため、本来の越冬地でその実が不作であると大群で移動する。以前に三重でも大群が観察されたことがある。環境の少しのずれが良く見るとどこかに現れる。これが気象の一時的な変動のせいであり、大陸での経済発展のための開発によるものでなければよいが。――――　中国の経済発展で極東の樹林の伐採がとめどもなく進んでいる。韓国では広大な干潟の埋め立てが行われている。当然どこかにひずみが来る。それが修復できなくなることもむろんありうる。そうでなくても地球の温暖化で、すでに極北など大きな変化があるようだ。

ひとつのものに頼る生物は浮き沈みが当然激しくなる。それでも環境が比較的安定しているときには回復する。回復できなくて、絶滅する場合も当然ありうる。多様な環境があり、様々なものに依存できることは種の保存にとって有利なはずである。とりわけ地球の温暖化という今までになかった大きな変化が避けられない現実では有利であろう。生物の多様性は人間の安定した生活と将来にとっても必要なはずである。経済発展のために切り捨ててもよいものでないことは高度成長期の教訓でもある。我々の会はその多様性のみはりをしなくてはならないだろう。

この号が会員に届くころ、ウソはどうしているだろう。谷筋ではミソサザイが鳴き始めているだろうか。

==========

しろちどり 75 号目次

==========

春を待つ----------1
表紙の言葉----------1
庭のハイタカ----------2
愛知県渥美半島大山での自衛隊ヘリ訓練
　断念を表明----------2
ソリハシセイタカシギ初見----------5
ミヤコドリ・ズグロカモメ
　同時カウント----------5
事務局だより----------6
野鳥記録----------9
探鳥会報告----------12
編集後記----------17

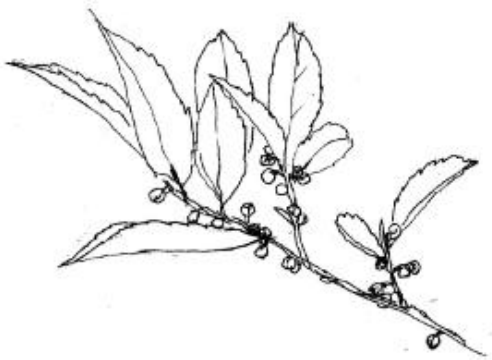
==========

表紙の言葉

ハマシギ

津市　石原　宏

冬の海岸ではハマシギがめだつ。集団でジグザグに飛行し、陽の光を受けた時は見事である。集団どうしてあんな飛行ができるのだろうか。繁殖地へ去るまでの少しの間、この海岸で餌を採って長い渡りのための体力をやしなう。この海岸がいつまでもこのままであってほしい。



ヒサカキ

庭のハイタカ

四日市市　鹿島素子

昨冬初め、狭い庭をすごい早さで横切るタカの尻尾を､度々見るようになりました。一体誰なんだろう？と思っているうちに、１２月、キジバトと並んで枝にとまるようになり、ハイタカの若鳥と判明しました。ハイタカは、その後スズメを仕留めたりして、すっかりこの庭の住人となってしまいましたが、キジバト達は、自分とほぼ同じ大きさで、且つ、若鳥なので、気にはなるものの、あまり危険とは思っていない様子でした。

ところが、２月２８日３時頃、ハイタカの背後２ｍほどの枝に一羽のキジバトがとまった瞬間、目にも留まらぬ早さで襲いかかり、地面までいっしょに落ちて行きました。　しばらくの間、バタバタと羽音が続き、周りには羽毛が舞い上がりました。ハイタカは、人が見ているのを気にして、何処かに持ってゆこうとしますが、重くて無理、やがてその場で手当たり次第、羽をむしりはじめました。そこで残酷なようですが、折角ハイタカがいただいた命、ゆっくり食べさせてやりたいと、私は家の中に入りました。３時４０分頃、カーテン越しに見ますと、胸肉あたりを懸命に食べているようです。６時頃、すっかり暗くなり、帰ったことを確かめに庭へ出てみますと、食べ残したキジバトは、高さ２ｍ位のスズメの餌台の屋根に運び上げられていました。

きっと色々考えたに違いありません、ここならば猫や鼠に盗られることは無いだろうと。

翌日は早朝から食べかけのキジバトを地面に下ろし、少し食べてはすぐ上の枝で見張りしながら休み、また食べて、を繰り返し、夕方４時頃までにすっかり食べてしまいました。３日目１０時頃見に行きますと、きれいに揃った尾羽と翼の羽だけが残っていて、昨日あった骨などは、すっかり無くなっていました。

それ以後キジバト達は、全員がこの事件を見ていたわけではないのに、皆がハイタカを怖がるようになりました。ハイタカは、スズメを捕るときの空振りや怪我などした頃に較べ、すっかり自信をつけた３月中頃には、怖いもの無しの立派な若者となって帰って行きましたが、特に小鳥の少なかった異例の冬を無事乗り切ったようでした。　（２５．２．７）

ハイタカ（鹿島素子）

愛知県渥美半島大山での自衛隊ヘリ訓練　断念を表明

渥美自然の会　大羽 康利

2003 年 3 月、田原市と渥美町（当時）境にある、渥美半島の最高峰越戸大山（おっとおおやま）（328m）山頂近くにある「陸上自衛隊大山無線中継所」の跡地約 1000 平方ﾒｰﾄﾙを陸上自衛隊(明野)航空学校のヘリコプター離発着訓練場として使う計画が突如もたらされました。　大山一帯は三河湾国定公園第 3 種特別地域に指定されており、愛

知県有数の照葉樹林が存在しています。この山林一帯（渥美山塊）ではこれまでにサシバ、ハチクマ、オオタカの繁殖が確認されており、また伊良湖を渡る猛禽類・小鳥はこの山塊を適宜休息しつつ通過して行きます。私達は訓練に関わる事実関係を正しく把握すべく、日本野鳥の会三重県支部に航空学校を訪れていただけないか、とお願いをしました。その報告を 2003 年 6 月 12 日に以下のようにメールでいただきました。

「通信基地は新しい通信システムができたため不要の施設となり、取り壊す予定だそうです。更地になった場所を何か活用方法がないかと全国の自衛隊関連に募ったところ、明野自衛隊がヘリコプター訓練地として活用したい旨、手を上げたということです。

明野はいままで練習は県内で行なっていますが、様々な練習地があればそれだけ技術が向上するので、練習地が確保できれば有難い、ただ、訓練回数が多くなるとか、人員が増えるとか、そういうことはないと言っていました。三重県支部としては、渡りの時期（8 月～ 11 月）や猛禽類の繁殖期（2 ～ 7 月）を考えれば、ヘリコプター練習地として活用するには難しく、国有林ならなおのこと配慮しなければならないことを伝えておきました。

日本野鳥の会三重県支部 事務局」

ハチクマ（雄）

私の下には 6 月 9 日付・三重県支部長名の「渥美半島越戸大山ヘリコプター訓練場建設について（要請）」との文書が保存されていますので、この訪問は同日の「ヘリコプター訓練場を造らないように」との申し入れと併せて行われたものと思っております。これは防衛施設庁（当時）に行われた最初の申し入れでした。

この後「野鳥の渡りや猛禽類の繁殖に関する自衛隊の情報収集能力には問題があるのでは？」との声も寄せられるようになりました。そこで、同年 8 月 18 日、渥美自然の会からの名古屋防衛施設支局への申し入れ時に、17 点の猛禽類・小鳥類に関する資料を添付・提出しました。

この後日本野鳥の会やその各県支部、日本自然保護協会、WWWＦジャパンなど多くの野鳥・自然関係諸団体に「中止を求める」署名をお願いし、2005 年 2 月までに 64 団体・8000 名を超える方々から賛同をいただきました。

日本鳥学会の 2004 年度総会では「鳥類以外の多様な生物も含めた、貴重な自然生態系として保全に十分配慮すべき場所である。」などとした「訓練場計画の再検討を求める要望書」も決議され、防衛庁（当時）や環境省に提出されました。

大山には愛知県災害対策課の防災行政無線施設とパラボラアンテナがあるのですが、「大山でヘリ訓練をするのでよろしく。」と挨拶に訪れた陸自航空学校職員に、県の担当者は「訓練の度に連絡を下さいね。」と告げるということもありました。

関係地域に住む住民の反対する声も大きく、2005 年 9 月に結ばれた「田原市長と陸上自衛隊航空学校長」との「覚書」には「（訓練は）1 ヶ月当たり 4 回以内、 平日の午前 9 時から午後 3 時まで」等とされ、「訓練場周辺の自然環境に配慮する」との 1 行も盛り込まれていました。

私達は WWF ジャパンの草刈秀紀氏の協

力の下、防衛庁のみならず環境省にも働きかけを行ってきました。2004 年 6 月 9 には国立公園課長等と会い「渥美半島の重要性については良く認識している。防衛庁から問い合わせがあれば、話をする。」などの言葉を確認していました。

2007 年、防衛省教育訓練課はアセス会社に委託して「大山地区希少猛禽類調査」を行いました。 2008 年 3 月その調査報告と妥当性について、同訓練課は環境省から紹介されたオオタカ保護基金の遠藤孝一氏に意見を求めました。遠藤氏は「調査が不十分でさらなる調査が必要、猛禽類の繁殖期間の重要な時期には訓練を実施しないこと。」などの指摘をしました。

この時点で通年の訓練は無理になっていました。更に、遠藤氏の意見を受けて 2010 年 9 月から’12 年 3 月まで 2 度目の「猛禽類調査」が行われました。

この調査結果の詳細及び検討結果が 2012 年 12 月 5 日に大山麓の地域役員等に紹介され、「大山でのヘリ訓練は断念した。」との東海防衛支局の表明となりました。

10 年という長年月に渡り、ご支援し続けて下さった三重県支部の皆様に厚くお礼申し上げます。

追記： 2012 年 12 月の地域役員への説明会で「三重県に 4 ヶ所の訓練場を確保できたので 大山訓練場は廃止する」と述べたことが明らかになっています。大山での離着陸訓練は当初「UH-1 及び UH60JA 等の中型ヘリコプター機以下」とされていたのですが、’08 年には「三重県内には多用途ヘリ UH60JA の着陸できる訓練場が無い」と大山訓練場の必要性を説いていました。

私達が防衛省に開示請求して把握している三重県内の「山頂訓練場」は

大日山（度会郡度会町牧戸）
虎ケ岳第 1
神岳第 1 （度会郡度会町牧戸）
神岳第 2 （度会郡度会町）

です。私の推測ではこの 4 ヶ所の訓練場を拡幅して UH60JA も着陸できるようにしたものと思っています。（ただし事実確認は行っておりません。）

大山山頂から神島、志摩半島を望む

ソリハシセイタカシギ初見

津市　前田　シズコ

一度は見たいと思い続けていた夢の「ソリハシセイタカシギ」を、冬休みで預かっていた孫を引き連れて一目散、目的地に駆けつけた。
風もなく穏やかな河口に、２羽が白いドレス姿で待っていてくれた。
時折、散歩の人が近づくと舞い上がり、又降り立つ、不自然な程に反り上がった嘴を左右に動かしエサを探す様子を見せていた。
また、洋上に双眼鏡を移すと、波間に漂う「ビロードキンクロ」も見ることができ、大満足の鳥見の一日となりました。

（ソリハシセイタカシギの詳細は野鳥記録をご覧ください＝編集部）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

ミヤコドリ、ズグロカモメ同時カウント

-ミヤコドリ 62 羽・ズグロカモメ 13 羽-

津市　岡八智子

2013 年 2 月 4 日　11:03 小潮ですがミヤコドリが集まって浜で休むので 10 時 30 分から 11 時の間 8 か所に 13 名が別れてカウントしました。
鈴鹿川河口― 4、高松海岸― 0、豊津浦－ 0、白塚海岸－ 0、町屋浦－ 0、志登茂川河口―0　安濃川河口―50
中河原海岸― 0　阿漕浦― 0　御殿場海岸― 7　香良洲海岸― 0　雲出川河口― 1
金剛川河口― 0　　北勢中勢を合計して 62 羽でした。
なお、北勢の海岸では 2013 年 1 月 30 日干潮時にカウントし、城南干潟－ 0、鈴鹿川河口－ 5、鈴鹿川派川河口－ 0 でした。
また、1 月 6 日に今井光昌さんが雲出川河口で 70 羽を観察しています。また、安藤さんが 77 羽を観察しています（野鳥記録　９ページ参照）残りは何処に居るのでしょうか？
きっと私達の目の届かない所に居ると思います。広い中勢海岸を探しきれません。
又最近餌採りの様子にも変化があり　干潮時安濃川河口に 2 羽しか見当たらない事もあり不思議で先日満潮から 2 時間後に飛び立つ所を観察しました。
どうも浜によって高さが違い少しでも早く潮の引いた干潟を探して飛び立つ様です。
まだまだ知らない事ばかりでミヤコドリも面白いです。
ミヤコドリカウントの後、ズグロカモメをカウントしました。
五主海岸－ 0、三渡川河口－ 0、阪内川河口－ 0、金剛川河口－ 12
なお、田中川河口での 1 羽を加えて。
合計 13 羽をカウントしました。

ミヤコドリの群（雲出川河口　2012 年 12 月 12 日　今井光昌撮影）

事務局だより

活動記録（2012 年 11 月～ 2013 年 2 月）

2012 年

11/18 第２回理事会

12/1　会報「しろちどり第 74 号」発行

12/17 松阪市白猪山ウインドシステム発電事業環境影響評価準備書に係る第２回三重県環境影響評価委員会小委員会を傍聴

12/23　南勢地区会

12/26　県委託「平成 24 年度地震対策ため池緊急整備事業環境調査その 2 委託」入札

2013 年

1/13　県委託「平成 24 年度ガンカモ類及びカワウ一斉調査事業委託」実施

1 月　平成 25 年度探鳥会計画を検討

1 月　「中勢海岸保護のしおり」作成中

2/3　臨時理事会（第 3 回）

今後の予定

3 月　第 4 回理事会

3/1　会報「しろちどり第 75 号」発行

理事会報告

第 2 回　（2012 年 11 月 18 日）津市雲出市民センター　出席者 12 名

○中部ブロック会議について

準備会案を検討

探鳥会：2 グループに分け、曽原大池、香良洲海岸を予定

講　演：山﨑　亨氏　はＯＫ再度確認済み「鈴鹿のイヌワシ」

講演はオープンにするかどうか検討する。

会　議：議長　平井（7 日のみにする、最後に議長を静岡の方に代わってもらう）

懇親会　司会：西村四郎

予告案内状：すぐに簡単な案内状（第 1 次案内）を送付する。

第２次案内＋申込書：　6 月に送付（当初予定の 7 月より早めた）

○中勢海岸保護

津市、松阪市に働きかけ　ラムサール登録をめざし事務局で環境省へ既に問い合わせた。地元保護団体と合同？で申し入れ書を作る。

パンフレット（中勢海岸）を作る＝パネルのファイルの転用＋アルファ

○来年度の体制

現体制を保持する（理事は留任予定）

○入会パンフレットについて

申し込書：三重の独自のものを作ってはどうか。

○度会町・南伊勢町風力発電問題

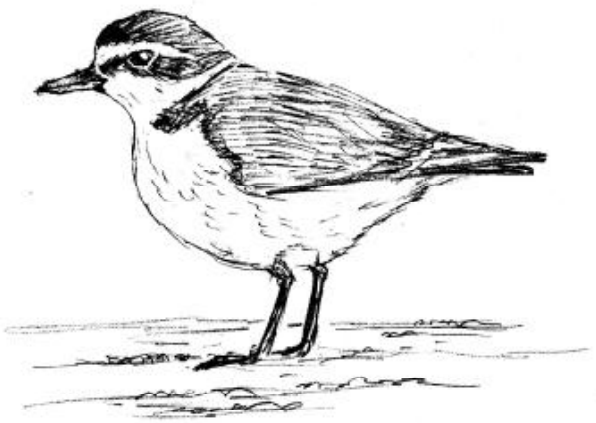
エンシュウハグマ、ネコギギが発見されている。

度会ウインドファーム事業（獅子ヶ岳）＝環境影響評価書が出た。

シメ

○木曽岬干拓地
　メガソーラー設置に会として反対　２月に三重県は公募をかけ丸紅に決定
　丸紅に申し入れする。
　チュウヒの繁殖は３年間失敗、保全区では繁殖ゼロ
○津市新最終処分場施設について
　最終処分場計画地：美杉町下之川
　環境影響評価準備書＝意見募集９月 15 日締め切り
　10 月現地視察し地元活動グループから説明を受けたが、現状では動けない。
○会員名簿の活用について
　理事より会員名簿を活用したいとの提案があった。
　現時点での会員名簿は、本部が管理している。
　事務局は会報の発送時にタックシールを本部から購入して発送し、名簿は必要なときのみ入手している。名簿管理について、目的外使用や名簿流出などが懸念されるとの意見や、現状では会のあるいは地区の活動がやりにくいとの意見もあった。議論したが結論はでなかった。

第３回臨時（2013 年２月３日）津市橋南市民活動センター　　出席者１１名
○中部ブロック会議
　探鳥会のスケジュール（朝食は７：00 から可能）
　２日目に会議が必要なら、朝食の後、食堂でそのまま会議とする。
　２ 台のバスに分乗、１ 台は　香良洲⇒曽原新田、　他の １ 台は　曽原新田⇒香良洲として、探鳥地を入れ替える。
　香良洲海岸（香良洲公園付近）　五主曽原新田大池
　朝食を済ませて集合　昼食なしで解散
　12：00 くらいに終わるように後日詳細を設定する。
　１日目夜の五主海岸の野鳥紹介（今井、平井）
○中勢海岸保護パンフレットの作成について
　印刷部数　5000 部　A5　８ページ、A4、２枚を二つ折りで製本なし
　隣県支部へ送る。
○会員名簿について
　当会の規程（簡単なもの）を作る。
　総会で公表して後、理事の希望者に配布（理事は代表あてに文書で要望する）
　コンピューターにはファイル交換ソフトを入れない。USB など紛失する媒体には記録させない。パスワードを付ける。会員への催しもの通知、鳥情報など使用は限定する。利用してはならない範囲を明確にする。当会規程の内容：
　（要検討）



シロチドリ

○三重県野鳥目録について

しろちどり野鳥情報の集計あり。会員のメモあり、ただし、その中には会員外の観察による記録があり、それらの記録の公表は困難である。

○ミヤコドリカウント

2 月 4 日 10：30 より 11：00 ミヤコドリ、昼食後　ズグロカモメをカウントする

○総会関係

日時：5 月 26 日（日）　　場所：三重県総合文化センター

野鳥講座は行わず、代わりに中部ブロック実行委員会を行う。

○木曽岬干拓地メガソーラー

チュウヒの繁殖に悪影響を与え、堤防、ポンプなど問題が多い。

1 月 17 日丸紅と話し合った。丸紅での計画は未定である。

○鳥類目録

日本鳥学会：「日本鳥類目録改訂第 7 版」の紹介

○県委託「平成 24 年度生物多様性調査「鳥類」業務委託」

契約は今年 1 年　目的：三重県産鳥類の改訂レッドリストを作成するため、野外データ、文献データ、標本データの調査・整理を行う。

○探鳥会保険

当会の活動には本部一括加入の保険と独自保険の 2 種に入っている。

独自活動、独自調査も保険の対象である。これらの活動中に事故などがあった場合は事務局に報告する。

野鳥記録　（2013 年 2 月 6 日までに報告があったもの）

野鳥の種類名	個体数	観察日時	観察場所（三重県）	雄/雌/など区別	記録報告者	脚注
マガン	1	2012年10月31日	松阪市五主町地内		前田 聰	1
オオアジサシ	25	2012年10月29日	津市香良洲町	成鳥と幼鳥の混群	今井 光昌	2
ヘラサギ	1	2012年10月31日	松阪市曽原町「通称・南大池（ボラ池）」		前田 聰	3
ルリビタキ	1	2012年11月23日	松阪市飯高町	雄若	西村 四郎	4
ミヤマホオジロ	6+	2012年11月13日	菰野町　三重県民の森	雄・雌成鳥	安藤 宣朗	5
ミヤマホオジロ	7	2012年12月25日	菰野町　三重県民の森	雄・雌成鳥	矢田 栄史	5
クロサギ	1	2012年12月13日	津市安濃川河口		佃 和男	6
トモエガモ	数羽	2012年12月25日	津市安濃川河口		佃 和男	7
ナベヅル	1	2012年11月23日	松阪市喜多村新田		中村 洋子	8
コクガン	4	2012年12月16日	松阪市雲出川河口		中村 洋子	9
コクガン	7	2012年12月25日	松阪市雲出川河口		安藤 宣朗	9
ソリハシセイタカシギ	2	2012年12月23日	四日市市 鈴鹿川派川		安藤 宣朗	
ソリハシセイタカシギ	2	2012年12月25日	四日市市 鈴鹿川派川		矢田 栄史	10
ツクシガモ	5	2012年12月12日	松阪市曽原町		前田 聰	
ツクシガモ	11	2013年1月6日	松阪市曽原町		安藤 宣朗	11
（ヌマアジサシ）	1	2012年12月25日	津市大里窪田町大澤池	幼鳥	岡 八智子	12
コハクチョウ	3	2013年1月23日	明和町根倉　笹笛川	成鳥２・幼鳥１	岡 八智子	13
ヒシクイ	2	2012年11月24日	伊勢市東大淀町　田園	成鳥雌雄不明	今井 光昌	14
マミジロタヒバリ	1	2013年1月19日	松阪市高須町	成鳥冬羽と思われる。雌雄不明	今井 光昌	15
アメリカコガモ	2	2013年1月24日	いなべ市大安町両が池	雄　成鳥	森田 えつ子	16
キクイタダキ	10＋	2013年1月31日	四日市市采女町采女城跡	雌雄成鳥	安藤 宣朗	17
ミヤコドリ	77	2013年1月6日	津市安濃川河口、香良洲町雲出川河口	成鳥	安藤 宣朗	18

注：

1. 近年では、2007 年 11 月、五主池で 3 羽のマガンが観察されている（編集部）。
2. 初認日に 25 羽カウントするも以後は 10 羽前後が続き終認日は 2 羽
3. 池東側の堤防下葦原にヘラシギ 1 羽が立ちすくんでいるのを発見したが、落ち着きがなかった
4. この時期のルリビタキのさえずり
5. 今季初認 6 羽＋α が群れており、短いぐぜりも聞かれた（安藤）
   地面でさかんに採餌していた（矢田）
6. 安濃川河口から空港行港への海岸を見ていたら、カワウとは違う黒い鳥がいた
7. カモを探していたら向こうの中州にトモエガモが数羽遊んでいた

8. 田んぼで 2 番穂をついばんでいた
9. ２羽ずつ別行動していた（中村）
ほぼ毎年見られるが今年は 7 羽を記録した（安藤）
10. 県内への飛来はめずらしい（安藤）、
２羽仲良く干潟の先端あたりで昼寝中（矢田）
11. 池に降り立った５羽のツクシガモを発見（前田）
.堤防の後背池で 11 羽の群れがお食事中（安藤）
12. 広い池を早いスピードで飛びまわり、急降下して水面近くの虫を捕まえている様でした、何アジサシ？
13. 2011.1.29　同じ場所に成鳥１・幼鳥２が来た記録がある、静かに見守りたいもの
14. 3 日間の滞在、場所を小移動するので同じ田んぼにいたわけではない
15. 歩いて立ち止まったときに立ち姿勢になり後趾の長い爪の写真もある、2013 年 1 月 29 日にも確認した
16. 昨年も来たが、今年は他のコガモ達と一緒に行動していた
17. カラ類と混群で移動中、今年は、三重県民の森、横山池などでの観察を聞く
18. 同時カウントではないが安濃川河口 65 羽、雲出川河口 12 羽それぞれ別個体としてカウント（時間差約 1 時間）

マガン（前田 2012/11/7）

オオアジサシ
（今井　2012/11/8）

ヘラサギ（前田 2012/11/9）

クロサギ（佃 2012/12/25）

ヌマアジサシ（岡　2013/1/25）

ヒシクイ（今井 203/1/31）

マミジロタヒバリ（今井 2013/1/31）

ソリハシセイタカシギ
（安藤 2013/1）

==========

探鳥会報告
（2012 年 11 月～ 2013 年 1 月）

● 中村川探鳥会

2012 年 11 月 4 日（日）9：30 ～ 11：00
松阪市嬉野一志町　中村川中流域
小野新子　竹川華子　参加者１６名（会員１５名）
カイツブリ、カワウ、ダイサギ、カルガモ、オカヨシガモ、トビ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ、チョウゲンボウ、コチドリ、イカルチドリ、イソシギ、キジバト、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ノビタキ、シジュウカラ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト　計２９種

前日の強風が治まり、暖かな観察日和となった。

近年の天変地異は野鳥の渡りにも多少の変化をもたらしているのか、本日の目当てオジロトウネンは、ここではまだ確認されていない。カモ類も、カルガモの集団の中でオカヨシガモ（雌）1 羽を確認しただけだった。地元のモズ、セキレイ、カワラヒワは元気だ。上空を舞うオオタカやカラスに追われるノスリに見とれている間に時が過ぎていった。

● 香良洲海岸探鳥会

2012 年 11 月 10 日（土）10：00 ～ 12：00
津市香良洲町　香良洲海岸
今井光昌　平井正志　参加者２０名（会員１８名）
カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、スズガモ、ミサゴ、トビ、ミヤコドリ、シロチドリ、トウネン、ハマシギ、ミユビシギ、オオソリハシシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ウミネコ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ヤマガラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、

ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト
計３５種
　穏やかな鳥見日和でした。
　観察種数３５種は、香良洲海岸から雲出川河口の種数としては多くありませんが、鳥の数が多く楽しめました。ミヤコドリが５６羽、ハマシギ・ミユビシギの群れ、干潟には 1000 羽以上のカワウやカモメなどで賑やかでしたが、午前中は逆光となり見づらい面もありました。
　次回からは午後の探鳥会にしたいと思います。

●　海蔵川探鳥会
2012 年 11 月 23 日（金・祝）9：40 ～ 11：40
四日市市西坂部町　海蔵川沿い
川瀬裕之　参加者６名（会員６名）
カイツブリ、カワウ、カルガモ、オオタカ、ヒクイナ、バン、キジバト、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ドバト　計２２種

ユリカモメ

　集合時間間際まで雨が降り続いたせいか、シーズン唯一の休日開催でしたがいつもの人数よりもかなり少なくやや寂しい開催となりました。開始する頃には雨は完全に上がり、鳥の出に期待が持てました。
　開始早々からカワラヒワ、キセキレイのイエロー隊の出迎えを受け気持ちいいスタートを決められました。中ごろにバンに混じりヒクイナも姿を見せ、クイナ科共通の足の長さも確認でき参加者のみなさんも喜んでいました。またこの場所では珍しくカケスも見る事ができ、やや寒かったですが冬の訪れを感じさせる満足いく探鳥会でした。
　天気が良ければもっと沢山の参加者が期待できたと思われます。

●　木曽岬干拓地探鳥会
2012 年 11 月 25 日（日）9：00 ～ 11：30
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　森井豊久　参加者２３名（会員１０名）
カイツブリ(20)、カワウ(3500)、ダイサギ(10)、コサギ(21)、アオサギ(10)、オオハクチョウ(2)、カルガモ(30)、コガモ(80)、オカヨシガモ(5)、ヒドリガモ(6)、ハシビロガモ(10)、ホシハジロ(20)、キンクロハジロ(6)、ミサゴ(6)、オオタカ(1)、ノスリ(6)、チュウヒ(2)、ハヤブサ(1)、チョウゲンボウ(1)、オオバン(9)、イカルチドリ(1)、タゲリ(20)、イソシギ(8)、ユリカモメ(2)、キジバト(2)、カワセミ(3)、アカゲラ(1)、ヒバリ(30)、ハクセキレイ(10)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(20)、ヒヨドリ(30)、モズ(6)、ジョウビタキ(6)、ツグミ(2)、ウグイス(1)、セッカ(1)、シジュウカラ(5)、メジロ(10)、ホオジロ(5)、アオジ(2)、カワラヒワ(5)、スズメ(50)、ムクドリ(4)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(100)、ドバト(20)　計４７種
　１１月末とは思えないほど暖かい快晴の探鳥会でした。鍋田干拓地の水田では成鳥と幼鳥の２羽のオオハクチョウがいました。木曽岬干拓地ではチュウヒ、ノスリ、ミサゴ、オオタカとたくさんの猛禽類が観

察できました。

● 員弁川探鳥会
2012 年 12 月 2 日（日）9：00 ～ 12：00
いなべ市　員弁川周辺
近藤義孝　参加者１１名（会員３名）
カワウ、アオサギ、ノスリ、チョウゲンボウ、ケリ、クサシギ、イソシギ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト　計３０種
　気温を低かったのですが、風がなくて、それほど寒い思いをせずに観察できました。
　ノスリが電柱にとまり、チョウゲンボウがハシボソガラスに追っかけられていました。シメやカシラダカなど、昨年と違い今年はたくさんの鳥を観察できました。

● ベルファーム探鳥会
2012 年 12 月 2 日（日）9：30 ～ 11：30
松阪市　ベルファーム
谷口ひろ子　小津美幸　参加者２３名（会員１８名）
カイツブリ、カワウ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、トビ、オオタカ、オオバン、イソシギ、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、メジロ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ハシボソガラス　計２８種
　天気予報では今年一番の冷え込みとのことでしたが、風もなく探鳥会には好条件でした。
　５年間の池の改修工事も終わり池もきれいになり期待していましたが、いつもより鴨は数が少ないように思いました。池の周りを一周しましたが小鳥の数も少なかったです。でも雄のカワセミに出会い池に飛び込み水中の魚を嘴にくわえていました。やった！カワセミに出会うとうれしくなり、良いことがあるように思います。

カワセミ

● 大仏山探鳥会
2012 年 12 月 9 日（日）9：00 ～ 11：30
伊勢市・玉城町・明和町　大仏山公園周辺
橋本祐子　西村　泉　参加者１２名（会員６名）
カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、キンクロハジロ、タカ SP、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、アカハラ SP、シロハラ、ツグミ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト　計２５種
　とても寒い日でした。
　調整池のカモが途中で飛んでしまい、数日前に下見した時より、数も種類も少なくなってしまいました。遠くでタカ SP が観察されたので、そのせいだったかもしれません。（森の中でよく声が聞こえるのに、アカハラかシロハラか種類がわからなかった鳥がいました。）

● 湖北探鳥会
2012 年 12 月 15 日（土）7：00 ～ 17：00
滋賀県長浜市　湖北
西村四郎　中西　章　参加者８名　（会員８名）
カイツブリ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガン、ヒシクイ、コハクチョ

ウ、マガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カワアイサ、ミサゴ、トビ、オオワシ、ノスリ、チュウヒ、チョウゲンボウ、オオバン、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、カモメ、キジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　計４２種

待ち合わせ場所では小雨がふっていましたが、「私たちが行くときは絶対に雨が止む。」という強い信念のＯＮ氏の勢いに天も降参し、時々薄日がさすほどでした。

始めに早崎ビオトープに寄りましたが、カモ類が少しいただけでした。その後、野鳥センターに立ち寄り、山本山のオオワシやセンター前のヒシクイ、マガンなど観察し、近くの様子を聞くと、ミヤマガラス、コクマルガラス（白色型）も確認されているとのことでした。オオワシを近くで見ようと山本山に向かいました。オオワシの集客力は凄く、２０人程集まっていました。飛んでくれるのを期待しましたが､残念…。センター隣の道の駅で昼食をとり、センター前をしばらく観察しました。尾上漁港に寄ると､カモやカイツブリ､オオバンなど､とにかくたくさん浮いていました、凄い数です。その後カラスを探しにあっちこっち走りましたが、結局探し出せず、しかし、トビはたくさんいました。

少し残念でしたが、定番のオオワシ、コハクチョウ､ヒシクイ､マガンは観察でき、まあまあ満足でした。

●　横山池探鳥会

2012 年 12 月 16 日（日）10：00 ～ 12：00
津市芸濃町　横山池
平井正志　参加者１０名（会員１０名）
カイツブリ､カンムリカイツブリ､カワウ、ダイサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カワアイサ、トビ、ハイタカ、オオバン、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、キクイタダキ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、ベニマシコ、ハシブトガラス、
計２８種

あいにく選挙の投票日と重なり、集合場所は車で混雑していた。

横山池に移動して、さあこれから池のカモ類を見ようかと望遠鏡などを持ち出していると、参加者の一人が池とは正反対方向を向いて、キクイタダキがいるという。なるほど枯れかかったスギの木にキクイタダキ、それも１羽ではない。参加者一同カモはそっちのけでキクイタダキに集中。これほどみんなが真剣に鳥を見る探鳥会もめったにない。双眼鏡で探すものスコープに入れるもの､カメラのシャッターを切るもの。しばらくして、群れは近くのスギの木に移って見えなくなった。カモを見ようとみんなを連れだすのだが、まだ、キクイタダキがあきらめきれない参加者も多い。そのうちまたキクイタダキが戻ってくる。全員キクイタダキを見たことで満足。キクイタダキだけの群であったようで、おそらく 10 羽くらいはいたであろう。その後池の西側の道を歩く、鳥はあまり多くなかったが、水に浸かったヤナギの木の風景が、上高地の様だと感動した。

探鳥会後、安濃ダムにオシドリを訪ねたが、これは空振り。その後、津地区有志で、昼食をとりながら来年度の探鳥会計画を練った。

キクイタダキ（横山池・前田撮影）

● 木曽岬干拓地探鳥会
2012 年 12 月 23 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
米倉　静　森井豊久　参加者２０名（会員３名）
カイツブリ(10)、カワウ(8000)、ダイサギ(2)、コサギ(7)、アオサギ(3)、マガモ(20)、カルガモ(100)、コガモ(200)、オカヨシガモ(20)、ハシビロガモ(40)、ホシハジロ(15)、キンクロハジロ(20)、ミコアイサ(2)、ミサゴ(7)、オオタカ(1)、ノスリ(1)、チュウヒ(1)、チョウゲンボウ(1)、オオバン(2)、ケリ(4)、タゲリ(30)、ハマシギ(1)、イソシギ(4)、ソリハシシギ(2)、ユリカモメ(1)、キジバト(2)、カワセミ(1)、ヒバリ(10)、ハクセキレイ(10)、セグロセキレイ(2)、タヒバリ(7)、ヒヨドリ(50)、モズ(5)、ジョウビタキ(4)、ツグミ(20)、ウグイス(15)、ヤマガラ(10)、シジュウカラ(6)、メジロ(20)、ホオジロ(5)、カワラヒワ(50)、スズメ(50)、ムクドリ(60)、ハシボソガラス(300)、ハシブトガラス(20)、ドバト(16)
計４６種
　朝、快晴無風の集合場所、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロの混群を見て出発。港で観察していると野鳥園からカワウの集団が出てくる。初めて見る人が多く、驚いてもらえた。木曽岬干拓地ではチュウヒがわりと近くまで飛んできて、ゆっくりと観察することができた。

ヒヨドリ

● 三重県民の森　冬の探鳥会
2013 年 1 月 13 日（日）10：00 ～ 12：00
三重郡菰野町　三重県民の森
市川雄二　尾畑玲子　参加者１５名（会員４名）
アオサギ、ノスリ、ヒヨドリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ウソ、イカル、ハシブトガラス
計１１種
　天候は良く風も弱い観察会日和であった。
　探鳥は初めてという方が多かった。野鳥の出現数は１１種とやや少なかったが、最後にウソがじっくりと見られ楽しんでもらえた。
　特に冬季にみられる野鳥はジョウタキ・ルリビタキ・ノスリ・ウソであった。

● 銚子川周辺探鳥会
2013 年 1 月 20 日（日）9：00 ～ 12：00
紀北町海山区　　銚子川周辺
中井節二　北川直人　参加者１３名(会員８名)
カイツブリ、カンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、トビ、ノスリ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ウミネコ、キジバト、カワセミ、イワツバメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、イソヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト
　計 35 種
　オオワシも２年連続で見られません。もう亡くなったのだろうか？しかし、今年の冬は冬鳥が多いのですが、この銚子川は河川工事などの影響か（？）カモとかカモメも少なく、来年に期待していきたいです。鳥の種類数は 35 種も出ました。ベニマシコも見られて良かったです。

● 大淀海岸探鳥会
2013 年 1 月 27 日（日）9：30 ～ 11：30
多気郡明和町　大淀海岸

岡本忠佳　中西　章　参加者１５名（会員１３名）
カイツブリ、ヒメウ、カワウ、アオサギ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、トビ、シロチドリ、ダイゼン、ハマシギ、ミユビシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、カモメ、キジバト、ハクセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス、ヒガラ、メジロ、ホオジロ、ミヤマホオジロ、アオジ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス　計３５種

朝から肌寒い状態でしたが、海岸堤防上は松林のおかげで風も弱く楽しく観察ができました。

参加者は遠路名古屋からの２名を含め１５名、鳥も３５種が見つかりました。特に、海岸堤防上のヒメウは青っぽく美しい羽根で参加者全員が堪能した次第です。また、この地では見られないミユビシギや波打ち際を歩くツグミも珍しかったです。

会員外の２名はインターネット情報で参加されたので、日本野鳥の会案内情報をお渡ししました。

●　木曽岬干拓地探鳥会
2013 年 1 月 27 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市　鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤義孝　米倉　静　参加者２１名（会員４名）
カイツブリ(7)、カワウ(100)、ダイサギ(1)、コサギ(1)、アオサギ(2)、マガモ(7)、カルガモ(20)、コガモ(140)、ハシビロガモ(8)、ホシハジロ(10)、キンクロハジロ(60)、ミサゴ(4)、ノスリ(3)、チュウヒ(3)、ハイイロチュウヒ(1)、ケリ(1)、タゲリ(3)、イカルチドリ(1)、イソシギ(1)、カモメ(2)、キジバト(7)、ヒバリ(12)、ハクセキレイ(5)、セグロセキレイ(1)、タヒバリ(10)、ヒヨドリ(20)、モズ(2)、ジョウビタキ(2)、シロハラ(2)、ツグミ(50)、ウグイス(1)、シジュウカラ(4)、メジロ(3)、ホオジロ(20)、アオジ(4)、カワラヒワ(17)、スズメ(100)、ムクドリ(100)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(50)、ドバト(30)　計４１種

ハイイロチュウヒの雄が木曽岬干拓地と鍋田干拓地を行ったり来たりしてくれた。降雪の後で観察しやすかった。

==========

編集後記

今年の冬はかなり低温であった。毎朝外気の温度を見ていたが、マイナス 2 ℃まで下がったこともあった。しかし、やはり 2 月になると太陽の光に力が出てくる。陽のあたる部屋は暖房もいらない日が多くなる。いつのまにか草が伸びている。ウグイスの鳴きだすのはいつであろう。

今回は渥美半島の大羽さんに原稿を依頼した。渥美半島は三重からやや遠いが、猛禽の渡り以外にも見所がいっぱいある。今でも時々訪れる。太平洋側の表浜にはミユビシギが飛来すると聞いているが、調べる人がいないようである。この半島は、観光客も多く、自動車関係の工場があり、その他にも開発計画も種々ある。ともすると、自然が破壊される。粘り強く活動しておられる彼にエールを送る。（M．H．）

しろちどり　75 号
2013 年 3 月 1 日発行
題　字：濱田　稔
表紙絵：石原　宏
カット：鹿島素子・平井正志
編　集：近藤義孝・平井正志
511-0123　桑名市多度町北猪飼 521
発行所：日本野鳥の会三重
平井正志方
514-2325 津市安濃町田端上野 910-49
http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/

印　刷：伊藤印刷株式会社
514-0027 三重県津市大門 32-13